

ベンチャーキャピタリストの かわる米国型の手法を採用。

村口和孝氏は、総額十四億円の 今回は個人が設立したファンド
投資基金（ファンド）として日 として異例の規模になった。

本テクノロジীবベンチャーパー ファンドは投資事業有限責任
トナース二号（NTVP2、東 組合方式で、村口氏が業務執行

14億円投資基金個人が設立

京、03・38015・8641） 組合員に就任。堀場製作所の堀

を設立した。創業間もないハイ 場雅夫会長をはじめ、公開企業
テクやネットワーク関連の企業 のオーナーなど約二十人から資
に投資する。村口氏は個人で資 金を集めた。店頭株市場の活況
金を集め、投資先企業の経営に や東京証券取引所マザーズの開

NTVPの村口氏

ハイテクなど対象

設を背景に、昨年十一月に設立
した一号ファンド（三億三千万
円）の四倍強の規模になった。

ファンドは既に株式公開の準
備に入っているベンチャー二社
に約四億円を投資したほか、三
社程度の投資先を予定してい
る。一年以内に十四億円分の投
資配分を終える予定。ファンド
規模の拡大により「管理報酬が
豊富になり、独立個人型ベンチ
ャーキャピタルとして軌道に乗
った」という。